



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長

(氏名) 下 祥造

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	12,134	△3.6	△305	—	△250	—	△873	—
26年3月期第3四半期	12,590	3.5	△362	—	△281	—	△492	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 △850百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 △449百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△45.02	—
26年3月期第3四半期	△25.35	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	17,852	14,746	82.6
26年3月期	18,568	15,596	84.0

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 14,746百万円 26年3月期 15,596百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,627	△8.1	△637	—	△569	—	△1,440	—	△74.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成27年2月12日)に公表いたしました「業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	21,076,154 株	26年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	1,666,718 株	26年3月期	1,666,514 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	19,409,578 株	26年3月期3Q	19,409,677 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、持ち直しつつあったものの、新興国を含めた世界経済の減速傾向、消費税率引き上げの反動減、円安による原材料高と物価上昇、実質所得の減少、天候不順などから、先行き不透明感が続いてまいりました。個人消費も消費マインドが冷え込み、回復が緩慢でありました。

このような状況のもと当社グループは、事業構造改革「NEW愛眼プロジェクト」を継続し「あなたにAnswerswer!」を掲げ、お客様の眼鏡に関するお悩み、ご不満を丁寧に解決しながら、眼鏡専門店としての安心感と、ライフシーン別に有益なアドバイスやサービスの提供に取り組んでまいりました。消費低迷もあり業績回復がなかなか進まず経営が圧迫されておりますが、事業構造改革と一層のコスト削減に取り組み、営業基盤の強化に自助努力する所存です。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、不採算店など10店舗の閉鎖や休業、消費税率アップに伴う先買い需要の反動減、天候不順等により業績が下降傾向となりました。また、年末商戦に向けロープライス価格帯の増設や、レンズのオプション割引、Tポイントの付与倍率アップなどキャンペーンを実施し、選択肢のボリュームを増やしながらお買い得感をアピールするとともに、新規6店舗を開設し売上拡大に努めましたが、販売着数、単価とも回復せず、売上高は12,134百万円（前年同四半期比3.6%減）となりました。売上総利益率が0.3ポイント改善し、広告宣伝費の抑制、賃料・交通費の削減、自社大型物件を除いた店舗改装の一巡で備品費等の経費支出が減少した結果、営業損失は305百万円（前年同四半期は営業損失362百万円）、経常損失は250百万円（前年同四半期は経常損失281百万円）となりました。また、特別損失として減損損失548百万円を計上したことにより、四半期純損失は873百万円（前年同四半期は四半期純損失492百万円）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

## [眼鏡小売事業]

当社グループは、「NEW愛眼プロジェクト」のもとで、メガネ一式価格「スマートプライス」で価格表示し割安感のある販売を訴求するとともに、お客様の様々なニーズに対応し楽しく、充実したライフスタイルの実現をサポートする「アイスタイリング・サービス」の提供に取り組んでまいりました。本プロジェクトを着実に軌道に乗せるため、新ビジュアル・アイデンティティーを導入、店名ロゴの変更、白色基調の店舗リニューアル等を実施し、明るく清潔感のあるイメージへとコーポレートブランドの刷新を進めてまいりました。プロジェクト達成に向け、各階層への販売強化の見直し、材質・機能に配慮したオリジナルシフトの推進、補聴器販売の強化、他業種への販売拡大の4項目をテーマに営業活動に取り組んでおります。

店舗に関しては、既存店舗のリニューアルを17店実施し、新規に6店開設しました。

運営面では、「おもてなし部」主導のもと接客力の充実を図り、商品に関しては、オリジナルブランドの「P O C O P」やクールビズメガネ「クリアフィット」、スポーツ専用ゴーグルタイプメガネ「アイススポーツ ディフェンダー」や子供用メガネ「ビバラキッズ」の新型フレーム、釣り用偏光サングラス「ストームライダー」、お風呂専用メガネ「FORゆ」のリニューアル品などを順次市場に投入し、お客様の生活シーンに適ったアドバイス、提案に努めてまいりました。付加価値を高めた商品の投入でメディアへの露出機会も増え広範に周知され、業種の枠を超えた取引へと展開し、新たな需要の掘り起こし、ニッチな市場への販路拡大を進めました。

売上に関しては、前期末の消費税率引き上げによる駆け込み需要の影響を想定しチラシ、DMなどでのセール告知、クーポンの実施に加え、下期より眼鏡業界では唯一のTポイント活用など集客強化に取り組みましたが、眼鏡の販売着数は減速傾向で推移し、販売単価が実質所得の減少や消費マインドの冷え込みの影響で前年を下回りました。サングラス、補聴器に関しては増加したものの、全体での売上は減少しました。一方で、利益については、オリジナル品の在庫構成比率アップ、レンズ等の集中販売、2着目半額セール休止などで、売上総利益率は僅かながら改善しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は11,467百万円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント損失は242百万円（前年同四半期はセグメント損失273百万円）となりました。

## [写真館事業]

写真館事業においては、七五三を中心に、新入学、結婚記念、ファミリー集合等幅広い年代、階層の撮影写真にきめ細かく対応してまいりました。また、季節指数が高く繁忙期となる1月の成人式に向け、販促ツールを利用した営業活動で予約受注に努めました。店舗に関しては、売上低迷が続く不採算店1店舗を休業しました。

売上に関しては、近鉄あべのハルカス店が好調に推移し、売上高は102百万円（前年同四半期比9.4%増）、セグメント損失は53百万円（前年同四半期はセグメント損失74百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は17,852百万円、負債合計は3,105百万円、純資産合計は14,746百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が134百万円増加し、純資産合計が850百万円減少した結果、自己資本比率は82.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。詳細については平成27年2月12日公表の「業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,428	4,752
受取手形及び売掛金	1,173	810
商品及び製品	2,772	2,561
原材料及び貯蔵品	28	42
その他	154	186
貸倒引当金	△11	△7
流動資産合計	8,547	8,345
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	6,739	6,594
減価償却累計額	△5,453	△5,411
建物及び構築物（純額）	1,286	1,182
土地	1,945	1,937
リース資産	4	4
減価償却累計額	△0	△4
リース資産（純額）	4	—
その他	2,510	2,264
減価償却累計額	△2,302	△2,236
その他（純額）	207	27
有形固定資産合計	3,444	3,147
<b>無形固定資産</b>		
リース資産	14	—
その他	60	22
無形固定資産	75	22
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	4,124	3,929
投資有価証券	1,491	1,630
その他	885	776
投資その他の資産合計	6,501	6,335
固定資産合計	10,021	9,506
資産合計	18,568	17,852

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	733	766
1年内返済予定の長期借入金	60	60
未払法人税等	127	83
その他	1,084	1,170
流動負債合計	2,005	2,080
固定負債		
長期借入金	345	305
繰延税金負債	50	60
再評価に係る繰延税金負債	7	7
資産除去債務	356	355
その他	206	296
固定負債合計	965	1,025
負債合計	2,971	3,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	6,549	5,676
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	17,939	17,065
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	97	117
土地再評価差額金	△2,471	△2,472
為替換算調整勘定	32	34
その他の包括利益累計額合計	△2,342	△2,319
純資産合計	15,596	14,746
負債純資産合計	18,568	17,852

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	12,590	12,134
売上原価	4,009	3,826
売上総利益	8,580	8,307
販売費及び一般管理費	8,943	8,612
営業損失(△)	△362	△305
営業外収益		
受取利息	18	15
受取配当金	10	11
受取家賃	33	39
物品売却益	16	—
その他	69	43
営業外収益合計	148	110
営業外費用		
支払利息	4	3
固定資産除却損	25	15
賃貸費用	26	33
その他	11	3
営業外費用合計	67	55
経常損失(△)	△281	△250
特別利益		
投資有価証券売却益	5	0
特別利益合計	5	0
特別損失		
投資有価証券評価損	0	—
減損損失	140	548
特別損失合計	140	548
税金等調整前四半期純損失(△)	△417	△799
法人税、住民税及び事業税	74	75
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	74	74
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△492	△873
四半期純損失(△)	△492	△873



（四半期連結包括利益計算書）  
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△492	△873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27	20
為替換算調整勘定	14	2
その他の包括利益合計	42	23
四半期包括利益	△449	△850
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△449	△850

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	11,907	93	12,000	589	—	12,590
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	59	△59	—
計	11,907	93	12,000	649	△59	12,590
セグメント利益又は損失(△)	△273	△74	△348	2	△17	△362

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去10百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△28百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	眼鏡小売	写真館	計			
減損損失	135	4	140	—	—	140

## II 当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計			
売上高						
外部顧客への売上高	11,467	102	11,569	564	—	12,134
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	58	△58	—
計	11,467	102	11,569	622	△58	12,134
セグメント損失(△)	△242	△53	△296	△2	△6	△305

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

(注) 2 セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去11百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△17百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の費用です。

(注) 3 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 （固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	眼鏡小売	写真館	計			
減損損失	368	4	373	—	175	548

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、報告セグメントが「眼鏡小売事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、前連結会計年度より、「写真館事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。